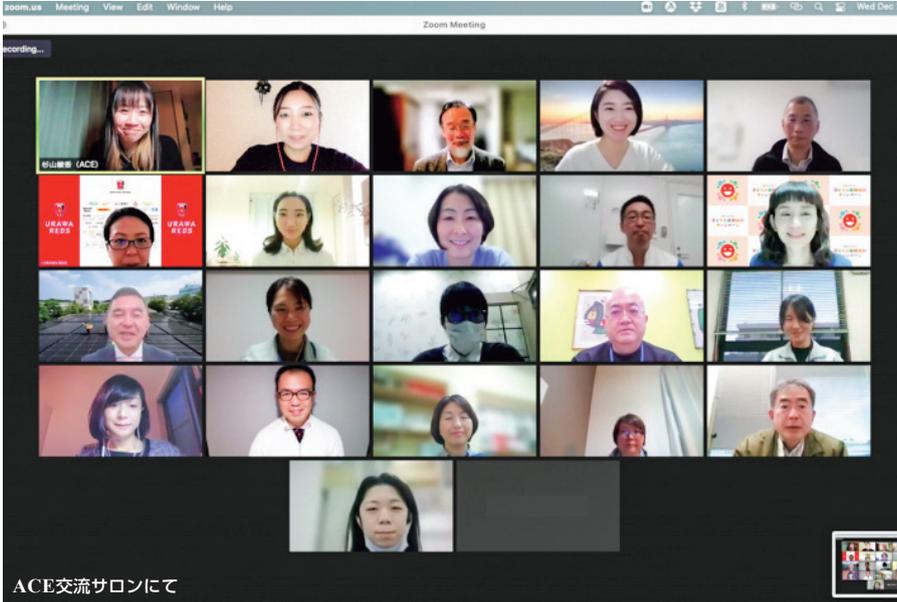


# インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能な Cotton の普及啓発活動

活動地域  インド、日本全域

ひろげる助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

アンケート回答企業	<b>96社</b>
イベント・講師派遣	<b>916人</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>90%</b>



## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

助成期間中に活動内容を見直し、一つの活動で大きなインパクトを創出できるように、人員体制・時間調整を行った。

### ■ 工夫した点

弊団体より発信能力のある企業や報道機関と連携することで、活動が社会へ波及・浸透するよう意識した。関係者との定期的な打合せを行い、関係構築を徹底した。

## 課題

Cotton の栽培には農薬等が使用され、土壌や水質の低下や健康被害などを招いている。また栽培に労働力が必要となり、種子栽培を行う地域で児童労働が増加している。

## 目標

サステナブルな Cotton の使用量が増加し、持続可能な開発目標のゴール12「持続可能な消費と生産」に貢献する Cotton のビジネスが促進される。

## 活動内容と成果

- サステナブルな調達に関する企業アンケートの実施  
助成1年目に実施したアンケートとの比較・分析を目的とし、織研新聞社と共同で日本の繊維・ファッション企業を対象としたアンケート調査を行った  
回答結果(一部):  
①SDGsを意識した活動をする企業が90%以上を占める  
②「長時間労働」「地球温暖化」課題認識が進んだ(地球温暖化に関しては21社→67社に増)
- 本アンケート調査をホームページに掲載し、企業・消費者へ情報提供を行った

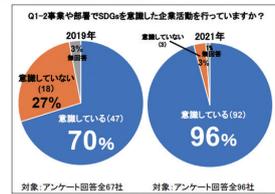
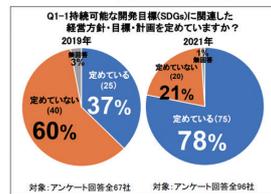


今後の展望

助成活動の中で関係を築いた企業・専門家から情報収集の機会を作り、外部環境状況のヒアリングを継続していく。新型コロナウイルス禍の Cotton 生産地の状況を含め、オンラインを中心に情報発信していく。国内のSDGsへの認知が高まりを見せ、日本企業の環境・人権に配慮したビジネスの促進が求められるようになった。これらを好機ととらえ、人権に関する講演やセミナーなどを定期的に開催していく。

### SDGsに関連した方針・目標・計画・企業活動の有無

#### ほぼ全ての企業がSDGsを意識して活動



・SDGsに関連した方針・目標・計画の策定は、37%から78%にほぼ倍増

・方針等の有無に関わらず、ほぼ全ての企業が、SDGsを意識した企業活動を実施

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

### アンケート回答(一部)

## 全助成期間の活動を振り返って

比較アンケート調査を行うなど、助成期間の長い地球環境基金の特性をいかした活動を試みた。4年目には Cotton を含むサステナブルなビジネスを促進する外部環境の変化が見られ、目標に近づく社会基盤ができはじめたことを実感した。2年目にインドへの視察ツアーを企画・催行を経て、サステナブルな Cotton を活用した商品開発が実現した。消費者への世論喚起は、新型コロナウイルス禍で機会が減少してしまった。

〒110-0005  
東京都台東区上野6-1-6 御徒町グリーンハイツ1005号  
E-mail: cotton@acejapan.org  
HP: http://acejapan.org/

